

医学部史料室

近代医学の躍動を伝える

JR名古屋駅で中央線に乗り換え、鶴舞駅下車、徒歩約5分、名古屋大学医学部がある。その広大な敷地の一角にある附属図書館医学部分館、その4階が医学部史料室である。

名古屋大学医学部の歴史は古く、明治3年（1870）に洋医学学校設立の建議が名古屋藩に出され、翌年、仮病院・仮医学校が開設されたことに始まる。その後、紆余曲折を経て、明治10年（1877）に愛知県公立病院・医学校が完成し、明治14年（1881）に後藤新平が校長就任。その後の財政上の危機を乗り越え、京都・大阪に並ぶ医学三校のひとつとなった。その後、官立医大から帝大医学部へと変遷し、現在に至っている。

史料室が開設されたのは昭和61年（1986）。そもそも尾張名古屋は江戸時代享保期まで漢方拠点のひとつでもあった。またその後、開国を経て日本初の植皮手術を行ったドイツ系アメリカ人ヨングハンス、その後任にオーストリア人ローレルなどを教授に迎えるなど、積極的に医学を摂取してきた歴史がある。史料室にはそれら日本における東西医学の歴史を物語る史料はもとより、本草学（植物学）も含めて多くの史料が収蔵されてい



明治初年愛知県公立病院外科手術の図。ローレツ在任中(明治9年～13年)に描かれたと推定される。「学士老烈(ローレツ先生囑)」とあり、柴田芳洲によって描かれた。執刀しているのが後藤新平、左端の和服で麻酔をする眼鏡の老人がローレツであるが、実際には年30歳そこそこの青年であった。



デジタルアーカイブでは医学部史料室の所蔵史料が公開されている。
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history/>



医学部分館発行のクリアファイルにデザインされた「近代医学の黎明双六」。

る。展示を一つひとつ見ていくと、それらが日本
 でどう浸透して行ったかがよくわかる。
 また医学関連史料は、同大学東山キャンパス
 や、博物館にも収蔵されている(博物館は57Pに
 記載)。



4 デジタルアーカイブを責任編集されている史料室担当の蒲生英博さん

5 東洋医学(漢方)に関する史料を展示。掛け軸は三村玄澄(1792-1853)。華岡青洲に学んだ漢蘭折衷外科を尾張にもたらした藩医の像。玄澄が第十代藩主徳川斉朝より拝領した膚着を納めた「拝領衣類函」や経絡人形などを見ることができる。

1 手稿本の北越従軍銃創図録(慶応4年)

2 名古屋市博物館所蔵の木製人骨を題材としている。尾張漢方の嚆となつた医学館に献納されていたもので、文政5年(1822年)京都池内某製作。

3 史料室から歩いて10分ほど、鶴舞公園にある伊藤圭介像。シーボルトとも交流があり、文政12年(1829年)に『泰西本草名疏』を刊行。尾張本草学とリンネを結びつけるなど、本草学の近代化に貢献した。

- 所在地 / 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学附属図書館医学部分館4階
- アクセス / JR中央線「鶴舞駅」北口より徒歩5分
・地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」4番出口より徒歩10分
・市バス栄18系統「妙見町」行き「名大病院」下車徒歩5分
・市バス栄17系統「名古屋大学」行き「千早」下車徒歩8分
- 開室時間 / 平日9:00～17:00
※利用は2階受付カウンターに申し出ること。
- 休日 / 土曜・日曜・祝日、年末年始
※医学部分館の休館に伴い、臨時に休室する場合があるので、事前に確認すること。

- お問い合わせ /
電話 052-744-2505 Fax 052-744-2511
ホームページ
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history/>

【主な所蔵品】
経絡人形・三村玄澄(拝領衣類函・掛軸)・明治期以降の医療器具・名古屋大学医学部ゆかりの人物(ローレツ・後藤新平等)に関する研究書や医学史等書籍や写真類・ベルツ内科講義録・シュルツェ外科講義録・「解体新書」等の古医書ほか